

3. 平成24年度研究評議会での評議会委員から寄せられた主要な意見・要望とそれに対する対応方針

1. 機関の運営

(研究評議会における指摘事項)

個々の研究はレベルのいいものを出しているのですが、それらの研究を複合し、総合力を発揮して現場で役に立つ研究としてほしい。

(対応方針)

個別の研究を全体的な視点から把握しつつ総合的な研究をすすめることが実際に現場で役立つ成果につながると考えており、放射性物質への対応のみならず、いま果たすべき森林・林業の中核研究機関としての役割を認識しつつ、今後、研究を推進して参りたい。

2. 人材の育成、交流

(研究評議会における指摘事項)

日本全体の科学技術政策の中で国際化と人材育成が問題になっている。研究者の国際的な交流を強化してもよいのではないかと。

(対応方針)

わが国の森林・林業分野における唯一の総合的研究機関として、今後、研究の国際的な水準が問われると認識しており、海外の研究機関との連携を図るとともに、人材育成の観点からも、研究者の派遣および受け入れに取り組んで参りたい。

3. 研究課題の設定

(研究評議会における指摘事項)

何のためのコスト削減なのかというところを考えて研究等をしていただきたい。コスト削減の研究が、より小規模の事業者も念頭に置いたものにしてほしい。

(対応方針)

育林や伐出作業の低コスト化の研究にあたっては、小規模の事業者も念頭に置いて、コスト削減技術の開発に努めて参りたい。

(研究評議会における指摘事項)

木材の価格形成を含めた研究分野にも参加し、トータルで国産材をコーディネー

トしていくようなことも考えてほしい。

(対応方針)

国産材の価格安定化対策のための需給調整機能や流通システムの解明に向けた研究課題の設定に努めて参りたい。

(研究評議会における指摘事項)

今後、何が必要になっていくのか、現場と対話しながら、必要な研究課題を考えてほしい。

(対応方針)

林業・木材産業の関係者との意見交換会や現地検討会を実施しているが、さらに産学官連携推進調整監等による活動を強化して、現場からの要望やニーズを掘り起こして、研究課題の設定に努めて参りたい。

(研究評議会における指摘事項)

過去の研究プロジェクトと今やっているものとの関連を示すと、研究プロジェクトがどのような位置付けになるか分かりやすい。

(対応方針)

研究プロジェクト立案にあたっては、従来の手法・成果等を分析するとともに、国内外における研究の進捗状況も踏まえつつ、取り組むべき研究課題を見据え、着実な研究の進展に努めて参りたい。

4. 広報

(研究評議会における指摘事項)

いろいろな研究を、例えば小冊子のような、分かりやすいかたちで伝えられるようにしてほしい。

(対応方針)

これまでも 「森林レクリエーションでのスズメバチ死傷事故を防ぐ」や「ニホンザルによる被害を防ぐ」など、写真や絵を多用した小冊子を作成するとともにホームページにも掲載し、一般の方にも分かりやすい形での成果の公表に努めているが、今後はご指摘を踏まえ、専門的な内容のものと、一般向けに分かりやすい内容のものに分けて、配布先も考慮して成果の公表に努めて参りたい。

(研究評議会における指摘事項)

森林総研が行っている研究は、国土から市民の生活まで幅広い分野を含んでいるので、放射性物質による汚染などの問題以外でも、市民に知られてもよいのではないか。 また、外部に発信するものは、焦点を絞って、戦略的に伝えてほしい。

(対応方針)

研究開発の成果等については学会等での発表するだけでなく、森林総合研究所研

究報告、季刊森林総研などの印刷物、研究所ホームページへの掲載、データベースの公開、一般公開、公開講演会、マスコミへのプレスリリースなどを通じて、それぞれにあった内容で外部に発信するように努めているが、さらに焦点を絞って発信するように努めて参りたい。

5. 他機関との連携

(研究評議会における指摘事項)

森林・林業の研究については、全国的な、あるいは基礎的な研究は、森林総研に行ってほしい。森林・林業に関する技術は、その地域によって応用しないと使えない技術もあるので、都道府県の林試の意義もそこにあると考える。これら地域の研究に関しても、森林総研に協力してほしい。

(対応方針)

森林・林業の地域研究に関しては、昨年度から各支所に配置された産学官連携調整監の業務の一環として、都道府県の公的林試との研究協力を進めきたところであり、今後も連携を一層強化して参りたい。

また、林業研究・技術開発推進ブロック会議において、国、都道府県、公的試験研究機関及び当所が、各々の役割分担の下、分野横断的に連携し、研究・技術開発を進めていくこととしており、当所は同ブロック会議での意見集約や研究推進の中核的役割を今後更に積極的に果たして参りたい。